雲晴

お盆号

「雲晴」第十九号
平成二十八年七月一日発行

貞林院瑞正寺
〒125-0041 東京都葛飾区東金町五－四六－五
電話（〇三）三六二七－三四一一
FAX（〇三）五六九九－五九一五

おしえの花束

ありがとうの言葉

『法句教』という経典のなかに、"人間として生まれるのはむずかしいことであり、生まれた以上、やがて死ぬときがくるが、いまこうして生かされていることは、ありがたいことだ"という意味の教えがあります。

私たちはふだん、人間に生まれたことをべつに不思議にも思わないでしょうが、ことによると人間以外の動物や虫けらなどに生まれていたかもしれないのです。もしかりに鶏に生まれていたとしたら、とうの昔に食肉用に処理されていたでしょうね。

そう考えると、いくらこの世の中がつらく苦しくとも、やっぱり人間に生まれていてよかったと思いませんか。そうしていまこうして生きているという現実は、深く考えるとほんとうに実にむずかしいということがわかります。つまり、有るのがむずかしいということで、「有り難い」という言葉ができたのです。

私たちは、決して自分一人の力では生きられませんし、多くの人や物に支えられ、お世話になって生かされていることに気づけば、心はきっと明るく豊かになって、それはそのまま感謝の生活に直結するはずです。そして、「ありがとう」のひとことは、相手の心にも響き、灯をともし、ともにさわやかになるでしょう。

私たちの生活を支えてくれているすべての物、たとえば食べ物一つを取り上げてみても、それが極度に不足した場合、いえ、たった一日食事を抜いてみてごらんなさい。考えるのは食事のことだけで、ほかのことは一切手につきません。

そして食べ物にありついたときのうれしさ、ありがたさは、表現のしようもないほどです。

人間のつねとして、豊富なものに囲まれていると、つい物の命を粗末にし、そのありがたさがわかりませんが、欠乏状態になると、だれもがその希少価値を大事にし、しみじみとその物のありがたさがわかり、自然に感謝の気持ちがわいてきます。その心を表現すると、ありがとうという感謝の言葉になるのです。

●「サミットに思う」●

宗慶寺住職　本多宗敬

去る五月二十六、二十七日、伊勢志摩にてサミットが行われました。警備等の不安も指摘されていましたが、無事に各国の首脳による会議が行われました。期間中、各国首脳の伊勢神宮の訪問、オバマ米大統領の歴史的な広島訪問などもありました。

たくさんの木々に囲まれた独特な雰囲気を持つ伊勢神宮を各国の首脳の皆さんが歩かれている映像が流れ、日本文化の原点ともいえる厳かな伊勢神宮がメディアを通じて世界に発信された事は非常に喜ばしい事です。

またオバマ米大統領の広島訪問では核兵器使用がいかに悲惨な結果をもたらすか、ひいては戦争の悲惨さを改めて考える良い機会になったのではないでしょうか。

仏教では『慈悲』ということばがよく説かれます。他者を慈しむ気持ちを大切にする考えは、表現する言葉は違っても仏教以外の様々な宗教においても大切にされることが多い考えです。

平和を求める気持ちというのは、どの立場の人でもどんな考えの人でも、どんな宗教でも、根本的に求めている気持ちだと思います。

過去を振り向くばかりでなく、過去を教訓として、未来に向かって、それぞれの国の相互理解が進み、平和な世界が訪れることを祈念しています。

民話の小箱（岩手県）

座敷童子●幸娘たち

昔、陸奥の岩手での話です。

ある年の春の日、年老いた旅の僧が一夜の宿をもとめて、一軒の長者屋敷を訪ねました。

何代も続いている長者屋敷は大変立派で華やかで、ここに暮らす長者の孫左衛門もやさしい顔つきの老人で、旅の僧を厚くもてなしてくれました。

その晩、眠っていた旅の僧が物音で目を覚ますと、布団の周りで三人の娘たちが手まり唄を歌いながら毬（まり）で遊んでいました。

子供たちに心癒された僧は、走り回っている娘たちに思わず「そんなに走ると危ないぞ」と声をかけてしまいました。その瞬間、娘たちの動きがパタッと止まり、そのままどこかへ逃げていきました。

翌朝、朝飯を済ませた僧は、昨夜の話があまりにも不思議で気色悪いので孫左衛門には話すことができませんでした。孫左衛門にお礼を言って、旅の僧はそのまま屋敷を出ました。

それから、何年か月日がたったある日の事、旅の僧がひさしぶりに長者屋敷の近くを通りかかりました。すると屋敷から三人の娘たちが出てきました。

旅の僧が「あんたたちは、長者屋敷の者かね？」と尋ねると、娘たちは「これから出ていく所だ。隣村の

一口法話

「からともち」は禁物

お寺参りに来られた方に、「どのようなご縁でお参りに来られましたか」とお尋ねしますと……　今日は天気が良いカラ。誘われたカラ。今日は暇だったカラ。私も、もうそろそろ近いようだカラ。天気が悪いと参らない。誘われたので仕方なく。忙しかったら参らないでは本当に佛を信じ敬っているのかどうか疑わしいですね。

また「もち」も同様。ずっと何時までも元気でいられるような気モチ。何時までも夫婦・兄弟姉妹・親子仲良くいられるような気モチ。滅多な事では私の番は回ってこないような気モチ。

如何でしょうか……　今元気だから明日も元気であるとは、かぎりません。諸行無常の世の中とは判っていても、私には関係ない、皆他人事のように考えていないでしょうか。

〝仮の世の　仮の命と　聞けば尚　世にある今を　おろそかにせず〟（中村柊花）尊い人の世に命を頂いたのです。今しかないのです。一刻も早く佛の救

長左衛門の屋敷に行く」と言って、立ち去って行きました。

長者屋敷の孫左衛門はもう亡くなっていて、今は見るからに欲深そうな若い当主に代替わりしていました。

それで旅の僧は、さっきの娘たちは座敷童子だったのだろうと気が付きました。

座敷童子に出ていかれた長者屋敷は、まもなく不幸な出来事が続き、みるみるうちに没落し、隣村の長左衛門の屋敷は、とんとん拍子で栄えていったという事です。

完

法然上人は、老いも若きも、男も女も、学問が有ろうと無かろうと、全ての人が、一人も漏れることの無い、お念仏の道を行けとお示し下さったのです。佛の救いをひたすら信じ、ただ口に南無阿弥陀佛と称えたならば、必ず阿弥陀佛は救いとって下さるのです。佛の縁、お念仏の縁に一刻も早く出会っていただきたいと思います。

（総本山知恩院布教師会ホームページより）

書への誘い

「目連」　故林錦洞書

貞林院瑞正寺　住職　林　清方

金文で「目連」と読みます。

まもなくお盆の時期を迎えますが、お盆の始まりについては「盂蘭盆経」というお経に書かれており、この中に出てくるのが、お釈迦さまのお弟子さんの一人である目連尊者です。

目連尊者は厳しい修行を積んで神通力、今で言う超能力を使いこなせる人でした。ある日のこと大変に親孝行でもあったので、亡くなった母親が今どうしているだろうと神通力を使い母親を探してみると、なんと母親は餓鬼道に落とされ、飲むことも食べることもできずガリガリに痩せておりました。この姿を見た目連尊者は嘆き悲しみ、お釈迦さまにどうして母親がこんな目にあっているのか、またどうしたら救うことができるのかを尋ねました。

お釈迦さまは「おまえの母親は生前自分の子どもだけを可愛がり他人の子どもには冷たい仕打ちをしていた罰で餓鬼道に落とされたのだ。母親を救いたければ、七月十五日に九十日間の仏道修行を終えた大勢の僧たちに水や食べ物などを施し、母親だけでなく過去の多くの先祖も供養してもらいなさい。」と言われました。

これがお盆での先祖供養の始まりです。

今、私たちが生かされているのは現世と過去の人々のお蔭です。お盆にはこのことを思い起こして、あらゆる精霊を供養し、父母はもちろんすべての人や物に対して感謝の心を持ちましょう。

七月・八月のお盆法要

本年のお盆法要は次のとおりです。
毎年お参り頂いている月のお盆法要にそれぞれご来山下さい。

○七月お盆法要
七月十日（日）午後二時より

○八月お盆法要
八月十三日（土）午後三時より

八月のお盆は毎年お棚経参りにお伺いしております。
本年の地区は金町・上小合と三郷地区にお伺いします。
なお新盆でお棚経をご希望の方は早めに寺までご連絡下さい。

「いのちを見つめる集い」についてのご案内

以前も寺報でご紹介しましたが、住職は「一般社団法人仏教情報センター」におきまして「仏教テレホン相談」の相談員として十四年活動しています。

このセンターは各宗派の僧侶が集まって組織されているもので、会員は現在約百五十名おります。

主な活動は電話による仏教に関する相談ですが、世相を反映してか心の相談や人生相談的なものが多くなってきています。また講演や研修会の講師などの依頼もあり、年に一回は街頭相談なども行っています。

その他の活動として「いのちを見つめる集い」を開催しています。この集いの会は、月に一回会場となるお寺の本堂に講師を招いてお話を聴き、その後に講師を交えて参加者とともに語り合うというものです。毎回テーマを変えて各方面の講師の方々をお招きしておりますので、檀信徒の皆さまも興味のある方はどうぞご参加ください。

予約の必要はありませんので当日直接会場までお越しください。

本年の予定については次のとおりです。

会　場　**浄土宗正覚院**（地図参照）
（江東区三好一―七―七）

時　間　午後一時半から四時頃まで

会　費　千　円

問合せ　一般社団法人**仏教情報センター**
（三八一三―六五七七）

九月八日（木）
「命を考える」
講師・**塩入亮乗** 師
浅草寺法善院住職
大正大学非常勤講師

十月十三日（木）
「釈尊のみ跡を慕いて」
（お釈迦さまのご生涯に学ぶ）
講師・**白川淳敬** 師
浄土真宗本願寺派　正法寺住職
浄土真宗本願寺派　東京仏教学院講師

十一月十日（木）
「見えにくい子どもの貧困」
講師・**栗林知絵子** 氏
「NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク」理事長
民生児童委員

十二月八日（木）
「新しい隣人（性的マイノリティー）」
講師・**永易至文** 氏
NPO法人パープル・ハンズ事務局長
ライター・行政書士

〔正覚院案内図〕

アクセス
●東京メトロ半蔵門線
●都営大江戸線
清澄白河駅[A3]から徒歩約3分

◇これも仏教用語なの？◇

「開発」

荒野を切り開き、通信や電気の技術を作り出す。人類は多くのものを開発することで豊かな生活を手に入れてきました。しかしその一方、物質的な豊かさに目を奪われ、環境破壊などの問題も起こっています。

仏教で「開発」は「かいほつ」と読み「仏となる可能性を切り開くこと」や「他人を悟らせること」を意味する言葉となります。

仏教には、誰もが仏になる可能性を持っているものの、欲望の心に包まれているという考えがあります。「開発」はそれを取り除くことで煩悩にさいなまれず、人々を救うことができるようになることをいいます。

開発によって手に入れた生活の豊かさも大事ですが、それにとらわれてしまうのは考えものです。心の「開発（かいほつ）」も忘れないようにしたいものです。

参考資料・浄土宗新聞「くらしの中の仏教語」より

（貞林院瑞正寺）